

会長、副会長及び各部部長報告資料

10月16日（水）

報	2
総会	179

2019年4月～2019年10月 活動報告



第179回総会 2019年10月16日(水)
第24期 日本学術会議会長
山極 壽一

1

設立から70年間を振り返って



・日本学術会議は、昭和24年の設立から70年が経過

(略)誠に科学は有力である。然しこの力を搾取と破滅に使ってはならぬ。平和と繁栄に役立てねばならぬ。日本の科学者は科学の力を信じ、その善用を企画して日本学術会議を作り、互いに選んだ会員をこの会に送った。選ばれた210人は科学こそ真に日本を再建し世界人類の福祉に貢献すると固く信じ、世界の学界と提携して、今日のこの日から活発に活動しようと思う。(略) (日本学術会議発会式(昭和24年1月21日) 亀山初代会長式辞)

- ・現在、70周年記念としてパネル展示「日本学術会議の設立と組織の変遷ー地下書庫 アーカイブズの世界ー」を開催中@1階ロビー

- ・地下書庫に保存されてきた資料から日本学術会議を考える展示



日本学術会議初期の活動①



・南極地域観測

我が国の南極地域観測事業は、日本学術会議が行った要望「国際地球観測年の実施について」(昭和29年5月1日)に基づいて開始。

南極地域観測を推進する南極地域観測統合推進本部も、観測事業の実施に当たり日本学術会議が行った要望「国際地球観測年における南極地域観測への参加について」(昭和30年9月29日)に基づいて創設。

観測船「宗谷」の修理費用の問題等から、昭和37年に昭和基地が一時閉鎖された際には、日本学術会議が勧告「南極地域観測の再開について」(昭和37年5月15日)を採決。結果、昭和40年に観測船「ふじ」が就航した。以来、毎年我が国の観測隊が派遣されている。

3
(要望「南極地域観測の継続と充実について」(平成15年9月18日日本学術会議)より作成)

日本学術会議初期の活動②



・共同利用研究所・研究機関設立

国立大学共同利用研究所は、昭和25年に日本学術会議が湯川秀樹のノーベル賞受賞記念事業を政府に申し入れたこと等により、昭和28年に京都大学基礎物理学研究所が設立されたことから始まり、以後、多くの分野で日本学術会議の要望等に基づき設立。

1-44

総発第24号 昭和25年1月23日

内閣総理大臣 吉田 茂 殿

日本学術会議会長 亀山 直人

湯川博士のノーベル賞受賞記念事業について(申入)

日本学術会議は、1月21日開催の第5回総会において、右の件について左記のものを決議いたしましたから、これが実現について、よろしくお取り計らい下さるよう、希望いたします。

記

湯川秀樹会員のノーベル賞受賞を記念して、理論物理学の研究を一層盛んにならしめるため、国家的事業の実施を希望する。

右決議する。

日本学術会議初期の活動③

・初期の原子力開発

昭和29年3月1日、太平洋ビキニ環礁でアメリカが水素爆弾装置の実験。また、日本学術会議は原子力問題に関して慎重に審議していたが、昭和29年度予算に原子力に関する経費が計上された。

これらを受け、日本学術会議は昭和29年4月23日に声明「原子力の研究と利用に関し公開、民主、自主の原則を要求する声明」を採択。さらに、同年10月28日に、採択された原則をまとめて、7つの要件を定めた申入「原子力の研究・開発・利用に関する措置について」を採択した。

これらの原則は、昭和30年に制定された原子力基本法に盛り込まれている。

(「日本学術会議25年史」(昭和49年3月30日日本学術会議)より作成)



原子力基本法
第一章 総則
(目的)
第一条 この法律は、原子力の研究、開発及び利用を推進することによつて、将来におけるエネルギー資源を確保し、学術の進歩と産業の振興とを図り、もつて人類社会の福祉と国民生活の水準向上とに寄与することを目的とする。
(基本方針)
第二条 原子力の研究、開発及び利用は、平和の目的に限り、民主的な運営の下に、自主的にこれを行うものとし、その成果を公開し、進んで国際協力に資するものとする。

1. 原子力の研究・開発・利用は、あくまで平和目的に限定し、その軍事的利用に導くおそれあるものの介入は、絶対にこれを排除すること。
2. 原子力の研究・開発・利用は、もつばら国民の福祉の増進、わが国の経済自立への寄与を目的とすること。
3. 原子力の研究・開発・利用およびその成果に関する重要な事項は、すべて国民がこれを知ることのできるように、公開されること。
4. 原子力の研究・開発・利用は、あくまで民主的な運営のものに自主的に行われ、安易な外国への依存は、これを避けること。
5. 原子力の研究・開発・利用に関係する機関の要員については、日本国憲法によつて保障された基本的人権を、とくに十分尊重すること。
6. 原子力の研究・開発・利用については、それにとまう放射線による障害に対する対策、特にその予防のために、予め萬全の措置を講ずること。
7. 核分裂性物質または核分裂性物質の原料となる物質は、国民の利益のために、厳重に管理されるべきこと。

(申入れ「原子力の研究・開発・利用に関する措置について」より)

社会の大きな変化①

- ・ 設立～現在の間には科学技術と社会の関係が変化
→ 科学技術なくして現代社会は成立せず、
社会との相互作用なくして科学技術の存在もありえない

(略) 21世紀を迎えた今日、科学技術と社会との関係は劇的に変化した。20世紀における爆発的ともいえる科学技術の発展は、世界そのものを変えてしまった。科学技術なくして現代社会は成立せず、逆に社会との相互作用なくして科学技術の存在もありえない。(略)

(「日本の計画」(平成14年9月日本学術会議運営審議会附置日本の計画委員会)より)



(略) 産業革命以降、ことに20世紀に入って学術と社会のつながりは一層密接なものとなり、学術は産業・経済・医療・福祉、政治制度等の領域において、人々の暮らしと社会の基盤を支えることに貢献してきた。学術の成果は人々に豊かな生活と長寿をもたらし、人間のあり方の多様性と共通性についての理解を助け、政策の立案に資してきた。情報革命はグローバルなレベルでの人々の交流を促進し、脳科学やDNA研究は心身への理解と治療に飛躍的な発展をもたらした。また、学術により蓄積された知識・技術は学校教育により次世代に継承され、人間自身と世界への理解を促し、平和で持続可能な社会構築の礎となっている。

このように今日、人々の生活は学術の成果なくしては成り立たず、他方、学術は社会からの多様な要請に応答して発展してきている。(略)

(「日本の展望—学術からの提言2010」(平成22年4月5日日本学術会議)より)

社会の大きな変化②

社会的出来事	環境問題・公害	東日本大震災	BSE	遺伝子組換え・ゲノム編集
関連の日本学術会議の主な提言等	<ul style="list-style-type: none"> 報告「地球温暖化問題解決のために—知見と施策の分析、我々の取るべき行動の選択肢—」(平成21年3月10日地球温暖化問題に関わる知見と施策に関する分析委員会) 提言「持続可能な地球社会の実現をめざして—Future Earth (フューチャー・アース)の推進—」(平成28年4月5日フューチャー・アースの推進に関する委員会) 	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災に対応する第四次緊急提言「震災廃棄物対策と環境影響防止に関する緊急提言」(平成23年4月5日東日本大震災対策委員会) 提言「東日本大震災を教訓とした安全安心で持続可能な社会の形成に向けて」(平成26年9月30日地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会) 	<ul style="list-style-type: none"> 牛海綿状脳症(BSE)と食品の安全特別委員会報告「食品の「安全」のための科学と「安心」のための対話の推進を」(平成15年6月24日牛海綿状脳症(BSE)と食品の安全特別委員会) 	<ul style="list-style-type: none"> 報告「遺伝子組換え作物実験施設の環境構築」(平成23年5月12日農学委員会・農業生産環境工学分科会) 提言「我が国の医学・医療領域におけるゲノム編集技術のあり方」(平成29年9月27日医学・医療領域におけるゲノム編集技術のあり方検討委員会)



社会の大きな変化③

- 地球の有限性という危機に直面：国際紛争
- 環境問題等科学技術の負の側面も現れてきた



「日本の計画」(平成14年9月日本学術会議運営審議会附置日本の計画委員会)より

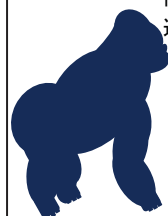
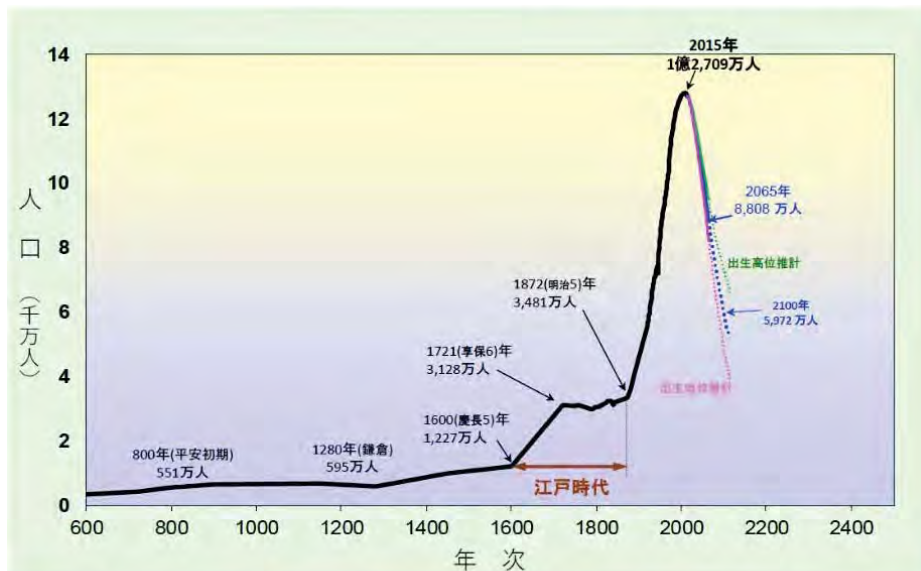


図1：地球・人間システムの状態を示すいくつかの指標

生物多様性の減少、気候変化、窒素循環は、安定状態（緑色）の限界を越えている。他の要素についても、近い将来限界を超える可能性が指摘されている。図中の？印は、データの不足などで限界が不明な要素を示している。出典：(Steffen et al. 2015) [6]

社会の大きな変化④

- 人口増加と、これから迎える急激な人口縮小
→これまでのスタイル・価値観は変わるのではないか



資料：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」（1946年までは国史）（1847～1870年 森田三「人口増加の分析」、1872～1920年 内閣統計局「明治五年以降我が国の人口」、1920～2015年 総務省統計局「国勢調査」[推計人口]、2016～2115年 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」[死亡中心仮定]

これまで私たちの社会がめざしてきたのは

生産性の増大
効率性の増大
資本力の増大
労働力の増大
消費の増大

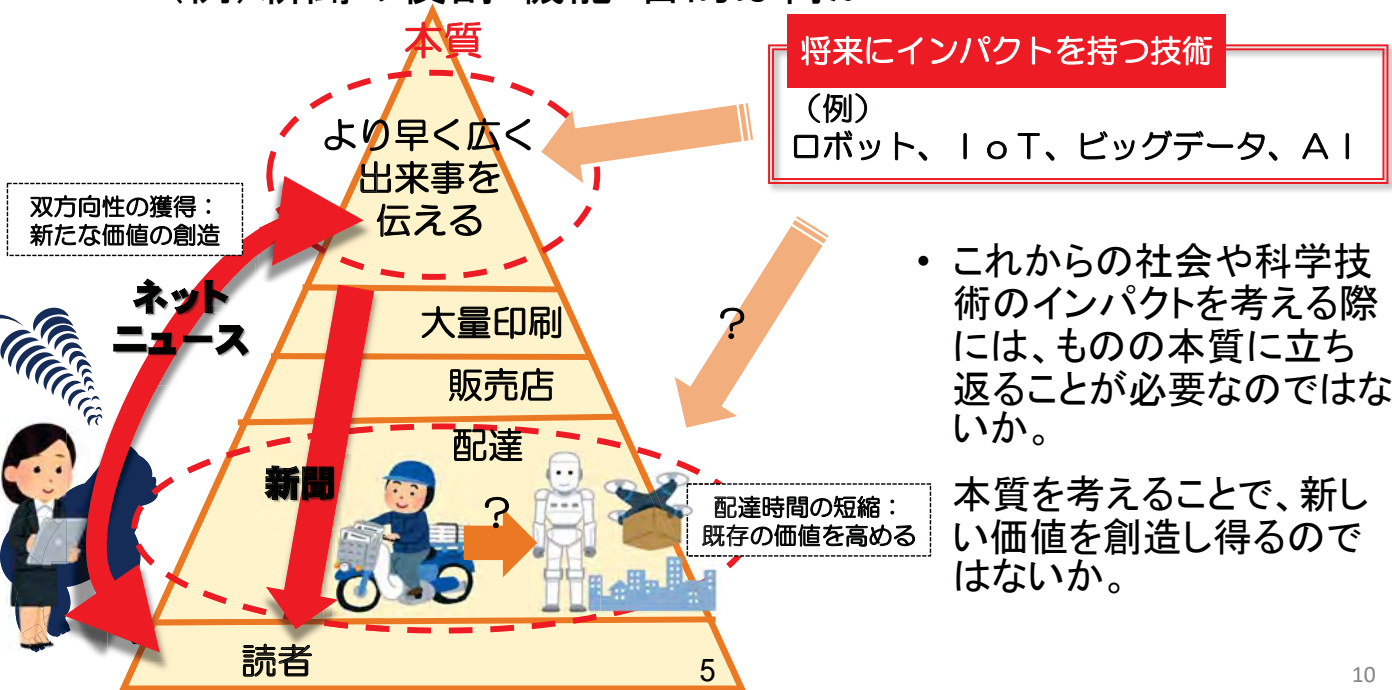
社会拡張主義
＝“人口増大”



日本の展望2020検討委員会 第4回資料(遠藤薫会員作成)より

将来を考える上での留意点

- 本質をとらえることが必要
(例)新聞の役割・機能・目的は何か

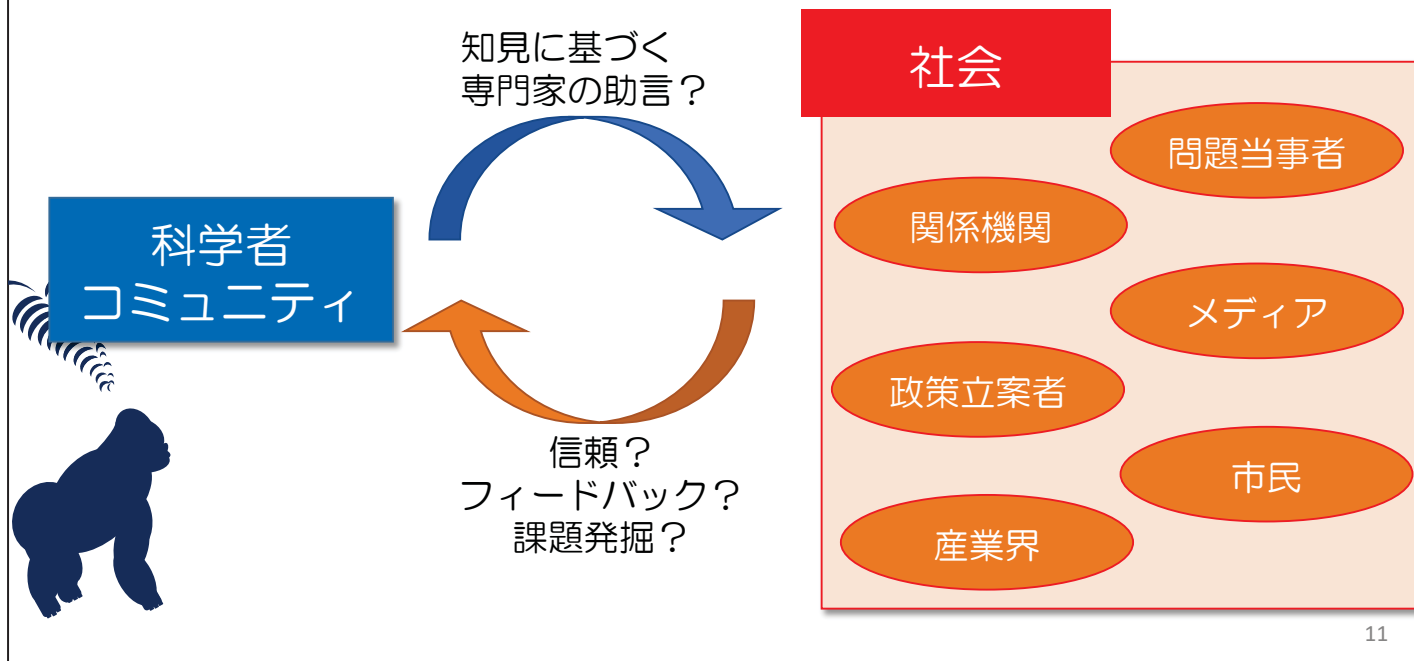


- これからの社会や科学技術のインパクトを考える際には、ものの本質に立ち返ることが必要なのではないか。

本質を考えることで、新しい価値を創造し得るのではないか。

科学者コミュニティの役割の変化？

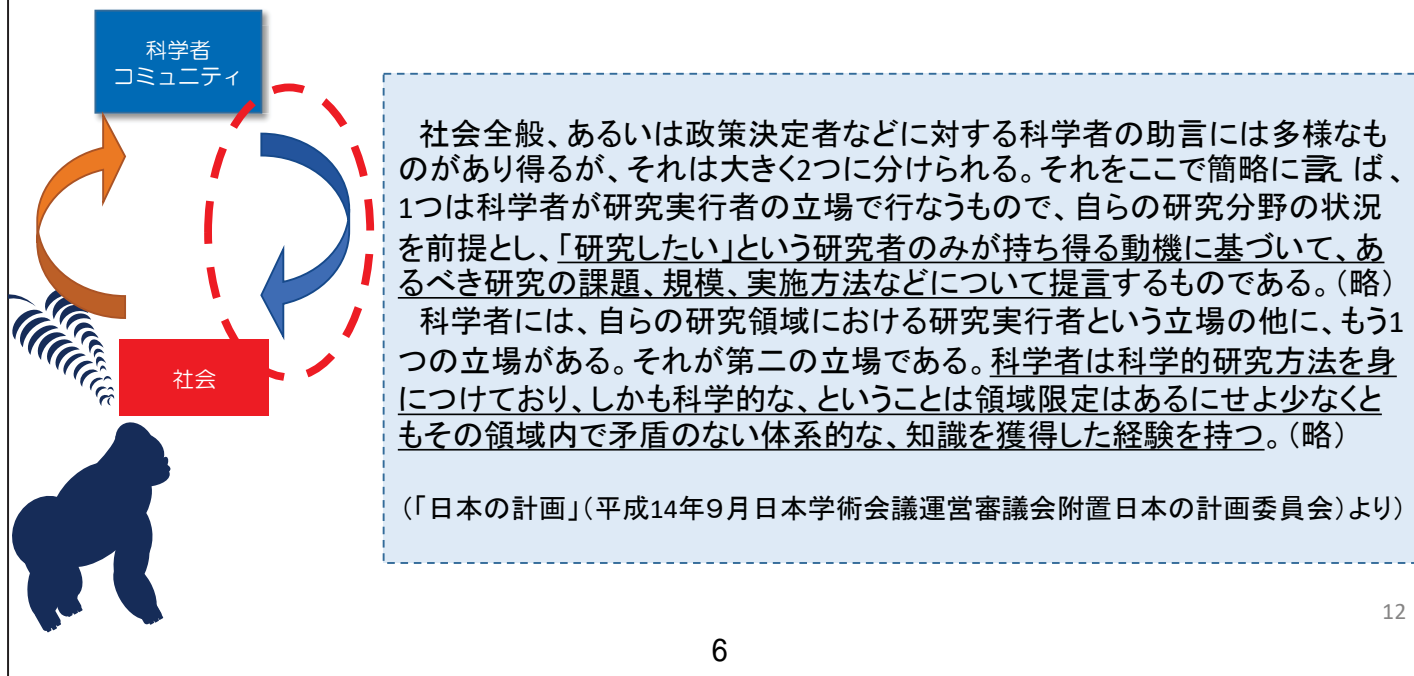
- これらの変化を受けて、科学者コミュニティの役割は変化したのか？



科学者コミュニティの役割とは

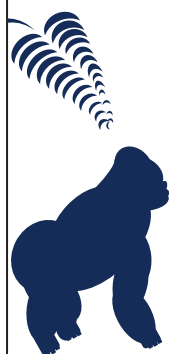
- 学術から社会へのアプローチ例：

社会的信頼を得るような科学的エビデンスに基づく助言



日本学術会議に求められるもの

- ・どうすれば、組織の目的である「科学の向上発達を図り、行政、産業及び国民生活に科学を反映浸透させること」を達成できるのか
- ・第6期科学技術基本計画の策定や25期改選等、日本学術会議はまさに節目の年を迎えるところ
- ・24期では、「対話」の重視によって目的達成を目指したい

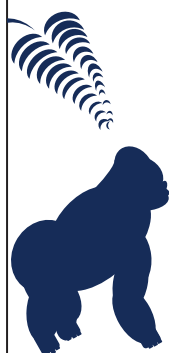


現在の日学の活動：対話の重視①

・第6期科学技術基本計画に向けて

政府は、「科学技術基本計画」を策定し、長期的視野に立って体系的かつ一貫した科学技術政策を実行するものとされているが、現在、第6期科学技術基本計画の策定に向けた議論が進められている。

日本学術会議は、第4期科学技術基本計画以降、日本の科学者コミュニティの代表機関として、学術の立場から、あるべき計画について提言しており、今回も提言を行うべく、現在、科学者委員会学術体制分科会で検討を進めているところ。



現在の日学の活動：対話の重視②



・環境省の審議依頼への回答

令和元年8月1日、環境省からの審議依頼に対する回答「人口縮小社会における野生動物管理のあり方」を鳥居敏男 環境省自然環境局長に手交。

日本学術会議としての立場を生かし、省庁を超えた立場から、望ましい野生動物管理とその担い手教育等について提言した。



15



現在の日学の活動：対話の重視③



・会長談話

9月23日に開催された国連気候行動サミットに合わせ、令和元年9月19日、日本学術会議会長談話「地球温暖化」への取組に関する緊急メッセージ」を公表し、近藤智洋 環境省地球環境局長に手交。

地球温暖化への取組のスピードが遅すぎることに警鐘を鳴らし、積極的な発言と行動を通じて変化を加速することを国民の皆様を求める内容。



16



現在の日学の活動：対話の重視④



・Gサイエンス学術会議

令和元年8月8日、G7各国の学術会議と共同で、参加各国の政府首脳に対する提言を、Gサイエンス学術会議共同声明として取りまとめ、平井内閣府特命担当大臣(科学技術政策)が立ち会う中、山極会長から安倍総理に手交。

提言のテーマは「科学と信頼」、「人工知能と社会」、「インターネット時代のシチズンサイエンス」。



17

現在の日学：対話の重視⑤



・CSTIとの連携【24期に強化】

昨年11月29日から、12月13日、1月17日、2月14日、3月14日、6月13日、7月13日、8月8日と、計8回にわたって日本学術会議の会員の代表がCSTI有識者会合に参加。

日本学術会議からの意見も踏まえ、現在、「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」(案)が作成されているところ。

現在の日学：対話の重視⑥



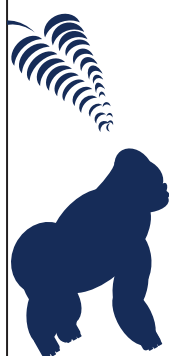
・日本学術会議 in 富山【24期から開始】

令和元年6月28日、富山大学で、第3回目となる地方学術会議を開催。地域の方々を巻き込み、地域に密着した研究に関する講演会やパネルディスカッションを実施。

パネルディスカッションの中で、管理者不在の森林の保全について問題提起がなされるなど、新たな課題が発見された。



19



これからの日学①ー1



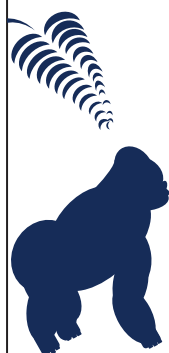
・日本の展望2020(仮称)

- ★科学者としての想像力を発揮して未来を展望し、バックキャストで、科学者として貢献できることを検討。
- ★本年4月の総会では総論に意見を募集した。
- ★本総会では、各論のコンテンツリストを紹介(次項)。

【今後のスケジュール(仮)】

令和2年

- ・1月初旬まで 各論の執筆作業
- ・1月～2月 原稿をもとに、提言案について審議
- ・2月 学術フォーラム開催
- ・3月 査読後の提言案を展望委員会にて承認予定
- ・4月総会 日本の展望2020(仮称)紹介



10

20

これからの日学①ー2

- 日本の展望2020(仮称)各論コンテンツ
 - 1 多様性と包摂性のある社会へー公正と共生の実現
 - 2 持続発展的(な社会)
 - 3 文化(仮)
 - 4 医療の未来社会
 - 5 知識社会と情報
 - 6 国土の保全と資源管理
 - 7 エネルギー・環境問題
 - 8 日本学術会議の世界の学术界における役割
 - 9 日本の学術の展望



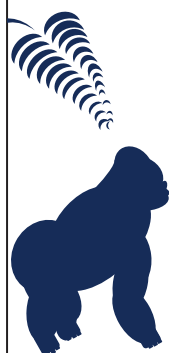
これからの日学②

• 令和2年10月半数改選

25期改選の基本方針(会員・連携会員の選考方法)を策定し、これから、会員選考が本格化する。

- 女性会員数30%の維持
- 女性連携会員数30%の目標達成
- 地方、学際領域、新たな領域、種々の分野の科学者を積極的に登用
- 若手アカデミーの活動を担う人材の登用(特に連携会員)

幅広く多様な候補者の推薦をお願いします。



これからの日学③

・午後の総会特別企画

学術から社会へのアプローチにはいろいろな形があり得るが、今回はアプローチの一つである「AIを用いた政策提言」に関し、日立京大ラボの福田先生にお越しいただいて講演していただく。

次に、若手研究者である若手アカデミーの先生方から、福田先生の御講演を踏まえたお考えを発表してもらう。

その後、福田先生や若手アカデミーを交えた全体討論の中で、学術のこれからや日本学術会議の役割について議論を深めていきたい。



23

科学技術とは？学術とは？①

- ・「科学技術（人文科学のみに係るものを除く。）」を改正する動き
- ・人文・社会科学と自然科学との知を総合的に活用する、という潮流

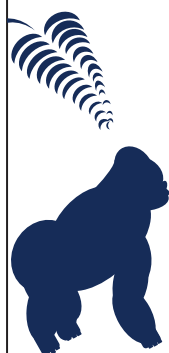
…(略)…世界では、SDGsやAI、バイオテクノロジーに見られるように、新しい技術の出現やイノベーションの進展に伴う社会、倫理の在り方についての関心や人文・社会科学に対する期待が高まっている。…(略)…

…(略)…科学技術は人類を幸せにするのか、という問題も提起されており、科学技術イノベーションにおける人文・社会科学の役割などが注目されている。…

(略)…

…(略)…その際、人文・社会科学と自然科学との知を総合的に活用することで、技術の進展がもたらす社会への影響や人間及び社会の在り方に対する洞察を深める取組が重要となる。…(略)…

(「統合イノベーション戦略2019」令和元年6月21日閣議決定)より抜粋)



科学技術とは？ 学術とは？ ②



「科学」「学術」の在り方を問われる時代

- これまでの価値観が変わっていく中で、
どのような社会を作っていくか、どのような価値を作るか
- 学術は、社会に何を提供できるのか
どのように社会と向きあうか
- 全分野の第一線の研究者が一堂に会する日本学
術会議だからこそできることとは何か



25

24期は残りあと1年



これまでの日本学術会議の歩みを振り返り、
これからの日本学術会議を考える中で、
24期で何を成し遂げ、

何を日本学術会議に残していくのか、
改めて考える機会としていただければ幸いです



13

26

組織運営・ 科学者間の連携

- 1 24期科学者委員会の構成(分科会等の活動状況)
- 2 科学者委員会附置分科会
- 3 財務委員会の活動
- 4 地区会議
- 5 その他

2019年10月16日
副会長 三成 美保

1 第24期科学者委員会の構成(分科会等の活動状況)



◆学協会

■協力学術研究団体

2,049団体 (2019年7月現在)

2. 科学者委員会附置分科会

2-1. 男女共同参画分科会

■第7回(6・27) メール審議

■第8回(7・12)

■9月～「男女共同参画・ダイバーシティ推進の進捗状況に関する研究者向けアンケート」を実施中

■10月～「男女共同参画・ダイバーシティ推進の進捗状況に関する学協会向けアンケート」を実施中

■2～3月に実施した「男女共同参画・ダイバーシティ推進の進捗状況に関する大学・学術研究機関向けアンケート」とあわせて分析を行い、11月17日開催予定の学術フォーラム「学術の未来とジェンダー平等ー大学・学協会の男女共同参画推進を目指して」での議論も踏まえ、2020年7月に提言をまとめる予定。

日本学術会議 SCIENCE COUNCIL OF JAPAN

2019年11月17日(日) 13:00~18:00 (12:30受付開始)
 於：日本学術会議講堂(参加費無料・定員250名・事前申し込み必要)

(主催) 日本学術会議・全国ダイバーシティネットワーク
学術フォーラム
学術の未来とジェンダー平等
 ~大学・学協会の男女共同参画推進を目指して~





津田塾大学 高橋裕子 学長
 法政大学 田中総長
 東京外国語大学 林学長

15:30~16:30 **〈座談会〉**
女性学長が語る大学の未来~男女共同参画の視点から~
 高橋裕子(津田塾大学学長・日本学術会議連携会員)
 田中優子(法政大学総長)
 林佳世子(東京外国語大学学長)
 <司会>三成美保(日本学術会議副会長・奈良女子大学副学長)

日本学術会議の位置となる女性学長の座談会では、「学術の未来と大学の未来」をめぐり議論について語り合っていました。

お申込フォーム(10月1日受付開始)
<https://forms.gle/8m1111111111111111>
 定員 250名先着
 (お申し込みがなくてもお席が空いている場合には入場いただけます)
 問い合わせ先：日本学術会議事務局企画課
 学術フォーラム担当 (03-323-6286)

主催：日本学術会議 <http://www.scj.go.jp/>
 全国ダイバーシティネットワーク <https://www.opened.network/>
 共催：男女共同参画学協会連絡会 <https://genderakaoji.org/>
 人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会 (GEAHSS) <https://geahss@res.waseda.ac.jp/geahss>
 後援：文部科学省(予定)

◆プログラム(13:00~18:00)◆

13:00-13:20 挨拶
 13:00-13:05 開会挨拶
 藤井良一(日本学術会議第三部会員、大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構)
 13:05-13:20 挨拶
 山極壽一(日本学術会議会長・第二部会員、京都大学総長)(ビデオ出演)
 西尾章治郎(日本学術会議連携会員、大阪大学総長、全国ダイバーシティネットワーク総括責任者)
 来賓挨拶(文部科学省)

13:20-13:35 趣旨説明
 三成美保(日本学術会議副会長・第一部会員、奈良女子大学副学長・教授)

13:35-14:55 第I部 大学・研究機関における男女共同参画の現状と課題
報告1 全国ダイバーシティネットワークの活動
 工藤眞由美(日本学術会議連携会員、大阪大学理事・副
 全国ダイバーシティネットワーク実施責任者)
報告2 企業が求める女性人材
 塚原月子(株式会社カレイディスト代表取締役、
 全国ダイバーシティネットワークコーディネータ)
報告3 グッド・プラクティス紹介~大学における男女共同参画の取り組み~
 ◆吉手大学 宮本ともみ(吉手大学副学長、人文社会科学部教授)
 ◆大阪府立大学 田間泰子(大阪府立大学人間社会システム科学研究科副研究科長)
 ◆立命館大学 田中弘美(日本学術会議連携会員・立命館大学学長特別補佐、情報理工学部特命教授)

14:45-15:25 第II部 研究力強化のための男女共同参画
 ~学協会の取組みから~
報告1 理工系学協会(男女共同参画学協会連絡会)
 熊谷日登美(日本学術会議第二部会員、日本大学生物資源科学部教授)
報告2 人文社会科学系学協会(人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会(GEAHSS))
 井野瀬久美恵(日本学術会議連携会員、甲南大学文学部教授)
報告3 医学系学協会
 名越澄子(日本学術会議第二部会員、埼玉医科大学総合医療センター教授)
報告4 若手研究者から
 丸山美帆子(大阪大学大学院工学研究科、日本学術振興会特別研究員(RPD)、
 京都府立大学大学院生命環境科学研究科特任講師)

15:30-16:30 座談会:女性学長が語る大学の未来
 ~男女共同参画の視点から~
 高橋裕子(日本学術会議連携会員、津田塾大学学長)
 田中優子(法政大学総長)
 林佳世子(東京外国語大学学長)
 司会:三成美保(日本学術会議副会長・奈良女子大学副学長)

16:40-17:55 第III部 座談会(フロンティアの討論)
 ~学術におけるジェンダー平等の推進~何か
 か?~
 パネリスト:工藤眞由美、塚原月子、熊谷日登美、井野瀬久美恵、名越澄子、丸
 司会:伊藤公雄(日本学術会議第一部会員、京都産業大学現代社会学部客員教授)

17:55-18:00 閉会挨拶
 野尻美保子(日本学術会議第三部会員、高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所教授)
 ◆総合司会:星野真弓(日本学術会議第一部会員、慶應義塾大学名誉教授・薬学部特任教授)

2-2. 学術体制分科会

■第6回(4・26)、第7回(5・29)、第8回(7・1)、第9回(8・8)

第6期科学技術基本計画への提言に向けた検討

■今後の課題

■総合科学技術・イノベーション会議における
 第6期科学技術基本計画に係る議論へのイン
 プット(11~12月予定)

2-3. 学協会連携分科会

■第9回(9・5)

協力学術研究団体規定及び研究者の定義について議論

- 要件「研究者の自主的な集まりで研究者が構成員の半数以上であること」

ここでいう「研究者」はどのような人物を指すのかを議論する。

- 要件「学術の研究発表及び議論を主たる目的とする機関紙を発行していること」

現在の規程では各学会が機関紙を発行していることを前提にして

いる。
複数の学会が協力して機関紙を発行する場合について議論する。
学術情報の国際化、オープン化、デジタル化の方向と、学会連携による機関紙発行についても議論する

- 今後の課題・予定:学協会のあり方、研究者の定義、協力学術研究団体の要件について、引き続き審議予定

2-4. 研究計画・研究資金 検討分科会

- 報告「第24期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン策定の方針」公表(2019・12・9)

- 学術大型研究計画公募(2019年2月～3月)

- 評価小分科会による評価(4～6月)

- 第12回(7・19)大型研究計画の策定及び重点大型研究計画ヒアリング課題の選定

- 第13回(9・14～16)重点大型研究計画ヒアリング

- 今後の課題

- 重点大型研究計画を含む、提言「第24期学術の大型研究計画に関するマスタープラン」の策定・公表

2-5. 学術と教育分科会

■第6回(4・26)

文部科学省の担当官を参考人として招致し、「今後の高等教育政策の動向について」ヒアリング。今日の政策動向を長期的視野に立って捉える議論を行った。

■第7回(6・21) メール審議

■第8回(9・27)

大学・大学院における専門(職)教育の動向を、医学・医療、法曹、教職、工学・情報学などの諸分野ごとに長期的に回顧し、課題を把握するための議論を行った。

■今後の課題・予定：引き続き「大学改革の30年」の総括及び大学再編政策・動向の検討(大学関係団体との意見交換、協力を含む)

2-6. ゲノム編集技術に関する分科会

■第4回(4・19)

国内の法整備に向けた動きに関する政府・行政サイドでの検討状況を参考人を招いて情報共有し、併せて分科会として今後の対応方針を議論。

■今後の課題・予定：11月17日に学術フォーラム「ゲノム編集技術のヒトへの応用について考える」を開催予定。併せて、今後分科会としての意見の表出をさらに検討する。

2-7. 研究評価分科会

- 第3回(4・19) メール審議
- 第4回(8・6)
 - 関係諸機関との意見交換を実施
- 今後の課題・予定
 - 分野別委員会へのアンケート(第2弾)を実施予定。関連諸機関と協力しながら、今期中の提言を发出予定。

2-8. 軍事的安全保障研究声明に関するフォローアップ分科会(新規発足)

- 第1回(4・24)予定
 - 役員の決定及び今後の進め方の検討
- 2018.9.22 学術フォーラム「軍事的安全保障研究をめぐる現状と課題」の諸報告(琉球大学・関西大学・日本天文学会の取り組み、全国大学アンケートの結果ほか)を、『学術の動向』(2019年6月号)に掲載。
- 今後の課題・予定:『軍事的安全保障研究に関する声明』に対する大学等研究機関・学協会の対応状況のフォローアップ等

3. 財務委員会の活動

■2019年4月以降の活動

■月1回の頻度で委員会を開催

第6回 4月24日、第7回 5月30日、第8回 6月27日、第9回 7月25日、
第10回 8月29日、第11回 9月26日

■2018年度決算報告

前年度の審議関係経費の決算報告について審議を行い、7月22日に会員、連携会員に対して文書で報告を行った。

■2019年度予算執行管理

3月末に配分を行った経費のうち、機能別・課題別委員会の開催のあり方について審議するとともに予算執行状況を毎月確認。第11回財務委員会では各部(分野別委員会)及び若手アカデミーの予算執行状況を確認。

■今後の課題

執行状況の精査に基づいて経費の再配分を行うとともに、より効率的・効果的な予算執行策の策定

4. 地区会議

■地区会議の活動

■科学者との懇談会の開催・学術講演会等の開催・地区会議ニュース等の発行・地域社会の学術の振興に寄与することを目的とする事業など

■全7地区会議→順調な取り組み(学術講演会等の実施)

■(1)北海道

■(2)東北(青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県)

■(3)関東(茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県)

■(4)中部(富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県)

■(5)近畿(滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)

■(6)中国・四国(鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県)

■(7)九州・沖縄(福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県)

◆地区会議(学術講演会 2019年4月～9月)

日本学術会議 in 富山

入場無料

富山から発信する 学術研究とSDGs対応

学術会議第1期では、富山大学が世界初の「科学芸術」の融合による研究を創出する。第2期では学術研究とSDGs対応の観点から、環境とエネルギーの融合を推進する。富山大学は、気候変動に伴う気候変動に関する研究を推進する。気候変動は、気候変動に伴う気候変動のリスクを軽減し、SDGs対応の観点から、環境とエネルギーの融合を推進する。富山大学は、気候変動に伴う気候変動のリスクを軽減し、SDGs対応の観点から、環境とエネルギーの融合を推進する。

PROGRAM

- 13:00 1 開会挨拶 齋藤 滋 (富山大学)
- 16:15 2 学術講演会 (司会) 森 寿 (科学教育委員会事務、富山大学大学院工学研究科 教授)
 - ▶1a 学術研究：脳科学と和漢薬
 - 13:05-13:35 1. 記憶の神経科学的実体 井ノ口 馨 (富山大学大学院工学研究科 教授)
 - 13:35-14:05 2. 和漢薬を基盤とした神経免疫治療薬開発 黒田 千尋 (富山大学理学部理学系学芸学部 教授) (発表 2019)
 - ▶2a 学術研究とSDGs
 - 14:25-14:55 1. 気候変動と富山の水循環 張 勁 (日本学術会議委員、富山大学理学部工学研究科 教授)
 - 14:55-15:25 2. クリーンエネルギー開発 枡 範立 (日本学術会議委員、富山大学理学部工学研究科 教授)
 - 15:25-15:55 3. 富山市の取り組み 本田 信次 (富山大学) (発表 2019)
- 16:15 3 パネルディスカッション (モジュール) 田代 裕弘 (富山大学理学部工学研究科 教授)
 - 気候変動対策の課題解決と地産地消 (パネル1)
 - 生・農産物の生産性向上 (パネル2)
 - 防災・防犯の推進を促すことについて (パネル3)
- 16:15 4 閉会挨拶 戸田 和久 (日本学術会議中部地区協議推進委員会委員長、名古屋大学理学部理学系学芸学部 教授)

富山大学 五福キャンパス 黒田講堂ホール 定員 500名

2019年 6月28日(金) 13:00~17:15

URL: <http://www.scj.go.jp/ja/area/index.html>

富山大学 五福キャンパス 黒田講堂 076-445-6011

令和元年度 日本学術会議東北地区会議主催公開学術講演会

入場無料
ご登録が必要です

超高齢社会における 看取りを考える

日本では、2016(平成28)年の平均年齢(総人口131万人)のうち、65歳以上の高齢者の割合は約17%に達し、超高齢社会(75歳以上)の死亡者数は約77万人の割合も74%に達しています。超高齢社会の到来に伴って、看取りのあり方に関する議論が活発化しています。本会議は、超高齢社会となった日本における望ましい看取りのあり方を、多面的に議論することを目的としています。また、日本学術会議として今後の社会にどのように取り組んでいくかを、参加者とともに考えたいと思います。

日程 令和元年9月15日(日) 13:30～16:45 (予定)

会場 コラッセふくしま 4階多目的ホール (福島県福島市三河町1番20号)

次 弟 (予定)

開会挨拶

- 清田 真代子 (日本学術会議委員、国立研究開発法人科学技術振興機構 副理事長)
- 黒川 常元 (日本学術会議東北地区会議 代表幹事、東北大学大学院工学研究科長・教授)

講演

1. 鈴木 雅夫 (ふくしま在宅緩和ケアクリニック 院長、特定非営利活動法人福島緩和ケア支援ネットワーク 理事長)
 - 「地域における看取りの実践」
2. 高橋 悦彦 (北海道東洋大学臨床部 学部長、日本緩和ケア学会 認定臨床研修医)
 - 「看取りにおける臨床宗教者の役割を考える」
3. 五井 隆枝 (暮らしの健康・ケアカフェ アンダグンチ)
 - 「医療系・社会福祉系からの看取りへのアプローチ」
4. 吉澤 謙 (東北大学 総長特別顧問(社会連携担当)、サイバーサイエンスセンター 教授)
 - 「サイバーヘルスモニタリング～診療からの生体情報抽出と看取りへの応用～」

質疑応答

閉会挨拶

- 竹之下 誠一 (福島県立医科大学 理事長兼学長)



お問い合わせ: www.bureau-tohoku.ac.jp/kenkyo/gakuyutsukaigi/form.html

TEL: 022-217-4840 E-mail: kenkyo@grp.tohoku.ac.jp

5. その他

■日本学術会議講堂天井改修

- 日本学術会議講堂の天井は、建築基準法施行令等の改正により耐震性の規制が強化されたため、耐震補強工事が必要。
- 現時点で具体的な工事開始時期は決まっていないものの、最も早くても第25期当初となる見込み。また、工期は少なくとも9か月以上要する見込み。
- 工事期間中に「総会」、「学術フォーラム」を開催する際は、代替施設(例:政策研究大学院大学など)にて開催を想定(事務局にて代替施設手配、学術会議経費負担)。代替施設の確保のため、令和3年4月総会については以下の日程で確定とする。25期会員におかれては予めご承知おきいただきたい。

第183回総会(予定) 令和3年4月21日(水)～23日(金)

- 公開シンポジウムは、主催する学会において会場を選定し開催(学術会議経費負担無し)。



報	4
総会	179

副会長報告 科学と社会に関する活動報告

2019年4月～9月の活動

2019年10月16日

「政府・社会・国民との関係」担当副会長

渡辺美代子

- | | |
|----|---|
| 内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 政府との対話 2. 産業界・市民との対話 3. メディアを通じた対話（広報） 4. 地方の取組み 5. 提言提出について |
|----|---|

1

<1. 政府との対話>

第24期審議依頼

国際リニアコライダー(ILC)計画の見直し案に関する検討委員会（家泰弘委員長）

- 文部科学省研究振興局（磯谷桂介）局長から2018年7月20日に審議依頼
ILC計画の研究の学術的意義、学術研究全体における位置づけ、国民と社会に対する意義、実施に向けた準備状況と予算、人的資源の確保等について
- 11回の委員会、11回の分科会で審議
- 2018年12月19日に回答
現状で提示されている計画内容や準備状況から判断して、本計画を日本に誘致することを日本学術会議として支持するには至らない。政府における、ILCの日本誘致の意思表示に関する判断は慎重になされるべきであると考え。

人口縮小社会における野生動物管理のあり方の検討に関する委員会（鷲谷いづみ委員長）

- 環境省自然環境局長より2018年6月14日に審議依頼
低利用地域で有効な科学的野生動物管理に関する現状の法制度等の課題と方策、野生動物問題の科学・学術面からの明確化と野生動物管理システムの要件整理と主体のあり方
- 6回の委員会で審議
- 2019年8月1日に回答
統合管理のための省庁間施策連携と基礎自治体の専門組織力の強化、地域資源を持続利用するためのルールとしくみの必要、科学的データの集積と運用のための市民に開かれた学術研究のしくみの構築の必要性、高度専門職人材の教育プログラムの創設等



科学的データに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会（渡辺美代子委員長）

- スポーツ庁長官より2018年11月15日に審議依頼
日常生活のスポーツが個々人の心身に与える貢献、社会的便益、スポーツの価値を多負けるためのスポーツと科学の関係、情報技術との関係、EBPM推進のための体制整備
- 8回の委員会で審議中

会長談話による意見の表明

「地球温暖化」への取組に関する緊急メッセージ

2019年9月19日に公表、環境省地球環境局長に手交

- 1 人類生存の危機をもたらす「地球温暖化」は確実に進行しています
- 2 「地球温暖化」抑制のための国際・国内の連携強化を迅速に進めねばなりません
- 3 「地球温暖化」抑制には人類の生存基盤としての大気保全と水・エネルギー・食料の統合的管理が必須です
- 4 陸域・海洋の生態系は人類を含む生命圏維持の前提であり、生態系の保全は「地球温暖化」抑制にも重要な役割を果たしています
- 5 将来世代のための新しい経済・社会システムへの変革が、早急に必要です



9月23日にニューヨークで開かれる国連気候行動サミットに合わせて、このメッセージを発信

科学技術イノベーション会議（CSTI）での対話

CSTI 有識者懇談会にて会員と議員の対話

- ・2018年11月29日から2019年8月8日まで8回にわたり実施
 - ・「基礎研究力強化について」、「研究力強化について」を議題に意見交換
 - ・会員と連携会員へのアンケート実施
 - 基礎研究力強化に向けた人材流動化と雇用の安定
 - 若手研究者の支援のあり方、国際頭脳循環のあり方
- ⇒学術会議の意見を取りまとめ、CSTIに提出
- 「研究者のキャリアパスについて」
 - 「若手研究者の意見から得られた対応策への提案」

科学と社会委員会 政府・産業界連携分科会

提言「産学共創の視点から見た大学のあり方

—2025年までに達成する知識集約型社会— 2018年11月28日

- (1) ビジョン牽引型ビジネスへの投資と連動した産学連携の推進
- (2) 各地域の大学を拠点とした情報・データの蓄積と活用
- (3) 若手の多様な経験の促進を中心とした国際展開と国際プラットフォームの構築
- (4) 我が国の人文・社会科学を強みにした未来社会戦略と科学の新展開

委員会
審議
(計12回)

← 6回

経団連・学術会議共同シンポジウム 2019年3月7日 経団連会館にて

「Society 5.0に向けた産学共創のあり方」 130人参加

- ◆日本の人口増加前後の江戸時代と明治初期から学ぶことは多、「黒船」「結社」「出島」
- ◆地方で産学が活性化、若者に責任ある活躍推進する必要性

← 3回

学術フォーラム 2019年5月22日 学術会議講堂にて 経団連と共催

「産学共創の視点から考える人材育成」

大学（モンテ・カセム（至善館学長）、平田オリザ（大阪大学特任教授））

企業（梶原ゆみ子（富士通, CSTI議員）、白木夏子（HASUNA代表取締役））等登壇

- ◆大学のくだらないと思える疑問こそがイノベーションを生み出す
- ◆人の心の内面を扱う演劇を中心に、大学と地方の新しいあり方を計画 ⇒ 国際化
- ◆大学教育でもっと不条理に向き合う
- ◆目新しいものを求めるのではなく、人々の感動を伴う新しいものを求めるべき

← 2回

学術フォーラム 2019年10月10日 学術会議講堂にて

「産学共創がうみだすベンチャー・インキュベーション」

五神真（東京大学総長）、久能祐子（シリアルアントレプレナー・Halcyon創設者兼議長）

落合陽一（筑波大学准教授、ピクシーダストテック24ロジーズ(株)CEO）等が登壇

← 1回

学術フォーラム

危機に瀕する学術情報の現状とその将来 Part2 2019年4月19日

学術誌をめぐる国内外の諸問題と対応策、エビデンスデータの公開をめぐる課題等を議論

グローバル政策ネットワークと国際機関—東アジア通貨金融秩序を中心に— 6月28日

学問とグローバル行政との連携とその問題について多角的に議論、東アジアの通貨金融問題に焦点

Future Earthと学校教育：持続可能な社会と海洋の実現を目指して 9月8日

学校教育での実践例から課題を整理、科学と学校教育の協働での人材育成を中学・高校生、大学生と議論

自動車の自動運転の推進と社会的課題について—移動の本能と新しい社会のデザイナー—

9月16日

技術開発動向、医学からの運転支援への期待、完全自動運転の人文・社会科学の取組を議論

いま問われる物理教育改革—より効果的な理工学教育をめざして 9月27日

大学の理工学分野教育の現状について問題提起、理工系人材育成の基盤となる物理学の教育改革を議論

サイエンスカフェ

	開催日	開催地	場所	テーマ	講師	参加者数
1	2019.5.23	大阪	Shot Bar 周太郎	経済学で考える、幸福度のはなし	山根承子	17
2	2019.6.29	岡山	岡山大学 50周年記念館	環境を守る！微生物のメタルバイオテクノロジー	石川彰彦	32
3	2019.7.18	大阪	Shot Bar 周太郎	“まだ見ぬ世界”を求めて～理論計算で新たな物質を探る	人見将	10
4	2019.8.1	兵庫	日本赤十字	ネット・ゲーム依存について～彼らはなぜネットやゲームに依存するのか～	曾良一郎	14
5	2019.9.19	大阪	Shot Bar 周太郎	古代ローマ人の公衆浴場とローマ人の健康	堤 亮介	

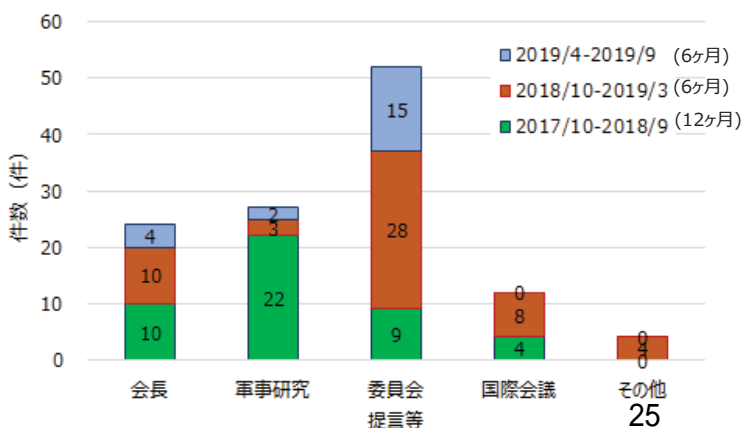
5

記者との対話と新聞発表

学術会議のメディアへの発信方法一覧

種類	内容	今期の実績
定例記者会見	会長・副会長が出席 必要に応じて関係者出席	3ヶ月に1回実施
記者レク	提言公表時等に希望がある場合	回答・提言・報告等（審議依頼含む）：5件 国際関係（S20）：1件
記者公表	提言、報告、総会、幹事会すべて 一部の委員会、学術フォーラム、シンポジウム、国際関係等 貼出先：永田クラブ、経済研究会、文部科学記者会、 科学記者会、学術記者会等（案件によって各省庁記者会へも貼出）	毎月実施（1回/月以上）
記者懇談会	非公式な対話の場	半年に1回実施 （2017年12月、2018年7月、2019年1月、7月）
記者連絡 （メール）	日本学術会議に取材登録のあったマスコミ関係者に対して、 定例記者会見・記者懇談会の開催案内等について連絡	定例記者会見、記者懇談会 医学部入試の公平性に関する幹事会声明と その関連シンポジウム 等

学術会議に関する第24期新聞記事のテーマ・件数



- ◆当初1年：45件
⇒次の半年：53件
⇒この半年：21件
- ◆最多は会長と報告(生物の重要用語)
- ◆注目案件が少

6

< 3. メディアを通じた対話（広報） >

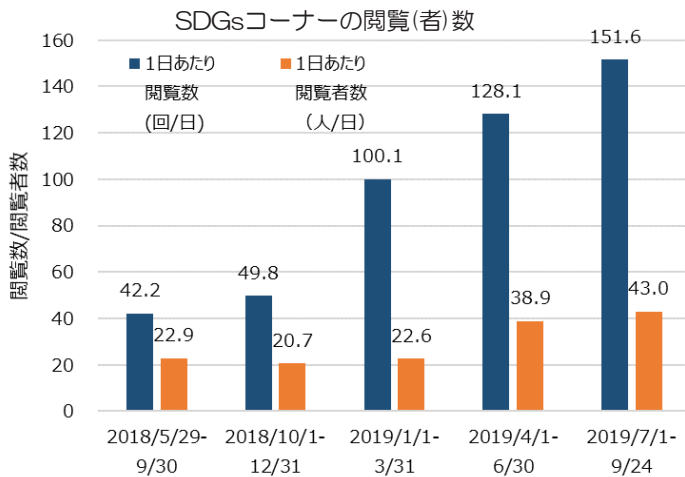
ホームページの改善

実施（2019年4月～9月）

- ◆Twitterですべてのシンポジウムと提言等を配信
- ◆提言の要旨をHTML化
- ◆「SDGsと学術会議」欄に、順次公表された提言等を掲載（日英、希望のみ）
- ◆広報委員会にウェブ発信専門研究者の委員追加

今後の予定

- ◆トップページリニューアル（今年中）
- 上階層のページを改良、スマホ対応
- ◆学術フォーラムのライブ配信試行



リニューアル後の日本学術会議HP



< 4. 地方の取組み >

学術会議の地方の取組み

地区会議

北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄の7地区
 目的：地区内の科学者等の日本学術会議に対する意見、要望を汲み上げて日本学術会議との意思疎通を図り、地域社会の学術の振興に寄与
 実施：各地区1～2回/年

地方学術会議（第24期から開始）

目的：学術会議を地方で実施、より一層強力に地方における学術振興を促進、日本の学術の更なる発展を図る

2018年12月22日 地方学術会議 in 京都「伝統文化と科学・学術の新たな出会い」

2019年2月16日 地方学術会議 in 北海道「Society5.0で北海道が変わる」

学術会議 in 富山

第一部 地区関係者と幹事会メンバーの会議

テーマ「SDGsの取り組み」

学術会議のSDGsへの重点取り組み状況説明
 富山大学でのSDGsへの取り組み説明、質疑応答と懇談

第二部 一般公開学術講演会

テーマ「富山から発信する学術研究とSDGs対応」

1. 学術研究：脳科学と和漢薬
2. 学術研究とSDGs
3. パネル討論 富山大学研究者、富山市政策監、企業経営者、市民代表、山極会長



350人参加

- 中部地区と富山大学の協力のもと、大学での開催、中核市での開催 ← 初めて
- 水平50kmの範囲に4,000mの標高差⇒森林域、平野部、沿岸域の水循環の研究
- 産官学が一体となって地域振興に取組み 26

< 5. 提言提出について >

提言の公表 (2019年4-9月)

衛生害虫による被害の抑制をめざす衛生動物学の教育研究の強化 2019年4月9日

農学委員会応用昆虫学分科会、食料科学委員会獣医学分科会、基礎医学委員会病原体学分科会

免震・制振のデータ改ざん問題と信頼回復への対策 4月16日

土木工学・建築学委員会

我が国における微生物・病原体に関するリテラシー教育 5月20日

基礎医学委員会病原体分科会

ゲノム医療・精密医療の多層的・統合的な推進 7月2日

ゲノム科学分科会及び臨床医学委員会臨床ゲノム医学分科会、臨床医学委員会脳とこころ分科会、臨床医学委員会腫瘍分科会

日本紅斑熱・SFTSなどのダニ媒介感染症対策に関する緊急提言 9月12日

基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同パブリックヘルス科学分科会

CT検査による画像診断情報の活用に向けた提言 9月19日

臨床医学委員会放射線・臨床検査分科会

提言提出時のチェックシート変更

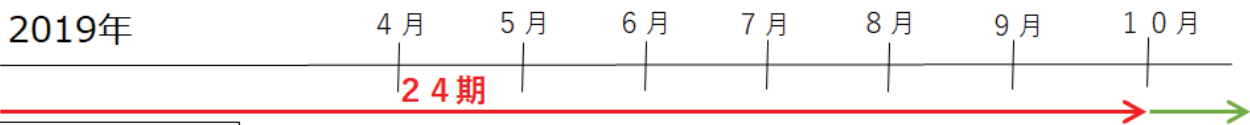
チェックシートに以下と追加 2019年11月幹事会決定

- ・ 英文タイトル
 - ・ SDGs (持続可能な開発目標) との関連 (任意)
 - ・ 英文アブストラクト (任意)
 - ・ (既出の提言等との関係において) 既出の関連提言がある場合、
「その提言等のタイトルと発出委員会・年月日をお書きください」
内容の整合・不整合を明確にしてください
- 提出のお願い

9

< 5. 提言提出について >

第24期末における提言・報告等の発出スケジュール



部・分野別委員会及びそれらの下の分科会

各部ごとに査読前案の提出締切が設定されていますので、必ず御確認下さい。また、意思の表出の御予定がある場合には、必ず事務局担当者に早めに一報し、スケジュールを確認してください。



幹事会附置委員会・機能別委員会・課題別委員会及びそれらの下の分科会

2019年5月29日
意思の表出の御予定がある場合には、必ず事務局担当者に早めに一報し、スケジュールを確認してください。



※期末になるほど意思の表出が集中し、想定どおりに査読や審議が進まないおそれもありますので、余裕をもってスケジュールを組んでください。

10

報	5
総会	179

日本学術会議 国際活動報告



第179回総会 2019年10月16日

第24期 国際活動担当副会長 武内 和彦



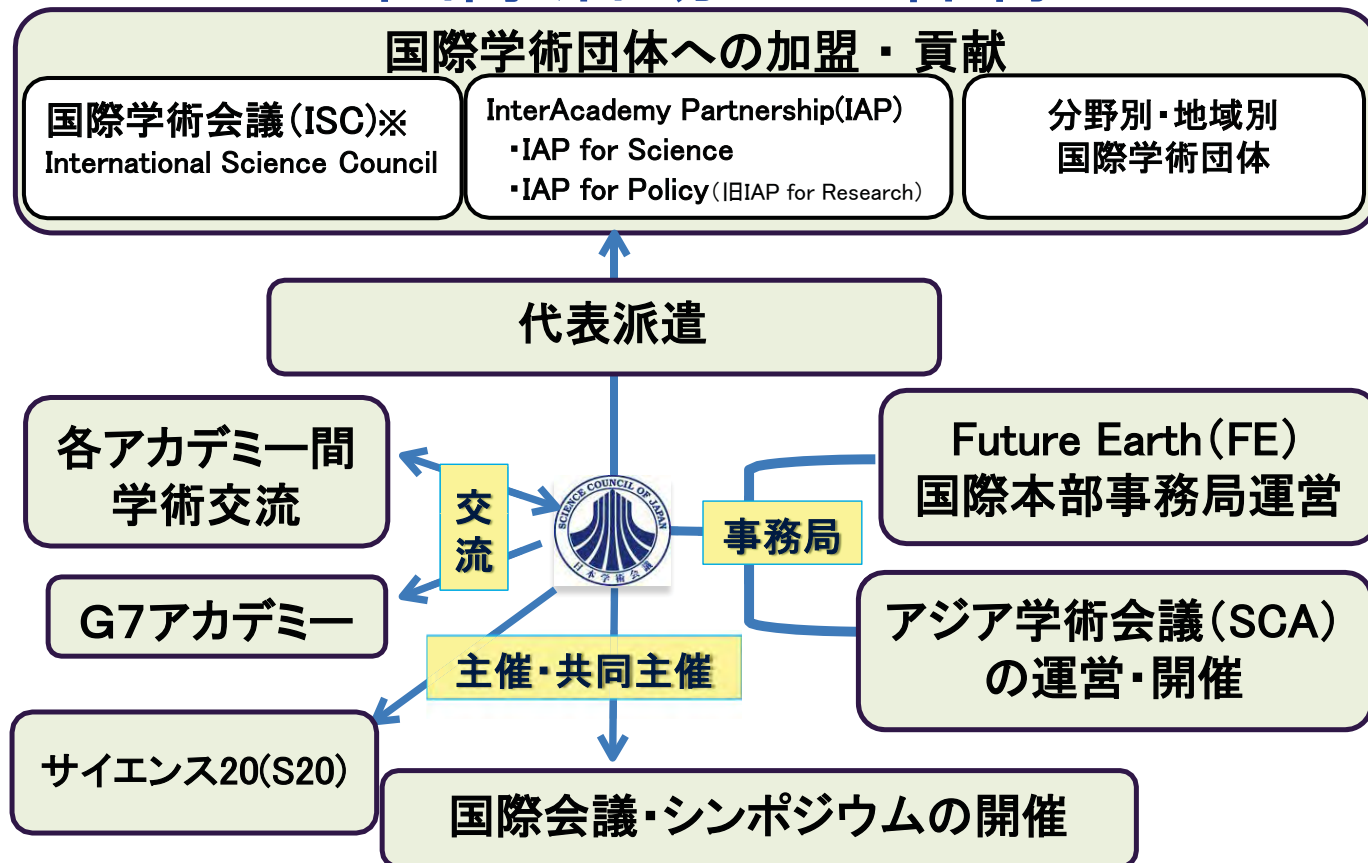
第24期の活動方針

- 個別分野の国際学術交流を基盤としつつ、分野横断的な国際活動の展開とネットワークの構築
 - 全学術分野を擁する日本学術会議の優位性を発揮
- SDGsの推進を始め、グローバルな課題解決に向けた加入国際学術団体や多様な主体との協働
 - 2018年7月に設立された国際学術会議(ISC)への積極的参画
 - IAP等加入国際学術団体に対するより一層の貢献
 - Future Earthの国際的展開
- アジア地域におけるリーダーシップの発揮
 - アジア学術会議の運営・開催等



国際活動の全体像

国際学術団体への加盟・貢献



※国際科学会議 (International Council for Science: ICSU) 及び国際社会科学評議会 (International Social Science Council: ISSC)の統合により、2018年7月発足。

3

①各国アカデミーとの連携・交流

・ Gサイエンス学術会議(2019)

G7各国の政府首脳に対する科学的な政策提言

- フランス科学アカデミーが主催・取りまとめ
- 武内副会長及び3名の専門家(岩崎、辻井、新福)が出席 (2019年3月/フランス・パリ)
- テーマ1 : Science and Trust (科学と信頼)
- テーマ2 : Artificial intelligence and society (人工知能と社会)
- テーマ3 : Citizen science in the Internet era (インターネット時代のシチズンサイエンス)
- 2019年8月8日安倍総理に手交



手交時の様子



②各国アカデミーとの連携・交流

- 科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム（STSフォーラム）第16回年次総会中、The 12th Academy of Science President's Meeting（2019年10月7日）を主催

テーマ：The Never-Ending Excitement and Value of Discovery Research（仮訳：ディスカバリー・サイエンスの限りなき感動と価値）

- 山極会長と武内副会長が出席し、参加アカデミーとともに、テーマについての報告と討議を実施
- 山極会長が全米科学アカデミー（National Academy of Sciences）とともに共同議長を務めた。



5

③各国アカデミーとの連携・交流

- サイエンス20(S20) 2019
- 2019年3月に、G20各国の学術会議（アカデミー）と取りまとめた共同声明について、2019年6月、「G20持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会合」において、G20各国の関係閣僚等に対し、プレゼンテーションを実施



プレゼンテーションの様子

・テーマは「海洋生態系への脅威と海洋環境の保全ー特に気候変動及び海洋プラスチックごみについてー」



31

6

④加入国際学術団体等への貢献

• 国際学術会議 (ISC) への参画

- 植松光夫連携会員が、委員長として
2019年4月ISCアジア・太平洋地域委員会定例会合へ出席
- 白波瀬佐和子連携会員が、2019年6月、
ISC常設委員会である「科学における自由と責任の委員会」(CFRS: Committee for Freedom and Responsibility in Science) 委員に選出された
2019年11月、第1回委員会に出席予定



7

-ISC傘下の多数のユニオンの運営への
日本学術会議会員・連携会員の参画

• IAP (InterAcademy Partnership)の活動

- IAP for Scienceへの参画
 - ・理事として参画(2016年～2019年)
- IAP for Policy (旧IAP for Research)への参画
 - ・理事として参画(2017年～2020年)
- 2019年4月 IAP総会・理事会に
武内副会長が出席(韓国)



32

8

⑤国際学会議の共同主催及び後援

共同主催国際会議の主催

- 2019IEEE回路とシステムに関する国際会議
(5月26日～29日@札幌)
- 第29回国際地図学会議
(7月21日～26日@東京)
- 第18回新芳香族化学国際会議
(7月21日～26日@札幌)
- 地球科学・リモートセンシング
国際シンポジウム2019
(7月28日～8月2日@横浜)
- 第25回ICOM(国際博物館会議)京都大会2019
(9月1日～7日@京都)
- 第17回国際義肢装具協会世界大会
(10月4日～8日@神戸)



第25回ICOM(国際博物館会議)京都大会2019
開会式で主催者挨拶を述べる山極会長

国際会議の後援

- STSフォーラム(2019年10月6日～8日) ほか2件を後援



9

⑥アジア学会議の運営・開催

- 日本学会議が事務局を務め(事務局長は吉野博連携会員)、18カ国・地域の32機関が加盟。毎年度、各国持ち回りで会議を開催
- 2019年は、12月3日～5日にミャンマー・ネピドーにて、第19回アジア学会議を開催予定。
テーマ: Research and Innovation for Sustainable Development in Asia
- 基調講演はADB副総裁のBambang Susantono氏、日本学会議山極会長、他3名が行う予定



ミャンマー・低湿
地帯の田園風景

33



⑦持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2019の開催について

1. テーマ 「グローバル時代の包摂を考える」
(Social Inclusion in the Global Era)
2. 主催 日本学術会議
3. 共催 国際学術会議(ISC)、国際社会学会(ISA)、
日本社会学会
4. 日時 2020年2月28日(金)
5. 場所 日本学術会議講堂
6. 概要 ダヤ・レディISC会長、エリサ・ライスISC副会長
他を招へいし、基調講演・パネルディスカッションを行う予定



11

⑧フューチャー・アースの国際的展開

- 日本学術会議は5か国の各種機関からなる国際本部事務局の一翼である日本ハブ事務局の推進役として機能
 - 2019年4月、「フューチャー・アース海表面及び下層大気研究に関する国際会議(SOLAS)」(札幌)へ派遣
 - 2019年5月、「フューチャー・アースHealth Knowledge-Action Network」(台湾)へ派遣
 - 2019年7月、「フューチャー・アース統合リスクガバナンスプロジェクト(IRGP)科学運営委員会(SSC)年次会合」(中国)へ派遣
 - 2019年10月、「フューチャー・アース地球大気化学国際協同研究計画(IGAC)科学運営委員会(SSC)」(メキシコ)へ派遣
 - 2020年3月、「諮問委員会及び評議会」を、5年ぶりに日本(京都)で開催予定



34

12

⑨代表派遣

- 令和元年度の代表派遣計画を実施中
 - － 令和元年度上半期は26件、32人を派遣
(総会・理事会等19件、その他会議7件)
- 若手アカデミー会員の派遣
 - － 2019年4月、IAP傘下のGlobal Young Academy 総会(ドイツ)へ若手アカデミー会員3名を派遣
 - － 2019年11月、世界科学フォーラム (WSF)本会議 (ハンガリー)へ若手アカデミー会員3名を派遣し、S20の成果を踏まえたサイドイベントを実施予定



